

## ■科目名

教育課程論

General Curriculum Theory

## ■開設年度

2021

## ■区分

教職理解科目

## ■学科名

教育学

## ■分類

## ■単位数

1

## ■履修期

4期

## ■履修条件

## ■開講期

前後

## ■担当教員

平野拓朗、廣瀬真琴

## ■代表教員名及び連絡先等

平野拓朗

hirano@edu.kagoshima-u.ac.jp

## ■オフィスアワー

水曜日 4限

## ■講義の概要（目的・内容・方法）

本講義では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育課程およびカリキュラム論の基本的な概念について理解すること、また、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを目的とする。

内容としては、教育課程とカリキュラムに関する概念的理解、新学習指導要領の動向、カリキュラム・マネジメントの理論的・実践的理解を踏まえた上で、学習者の学びのプロセスを質的に評価する方法やカリキュラムの現在進行形の実践についてアプローチする。

## ■授業の到達目標及びテーマ

- 教育の方法・技術をめぐる現代的課題を説明することができる
- 教育の方法・技術に関する基本的な概念を判断することができる
- 教育の方法・技術に関する理解を踏まえて、学習指導要領を作成することができる

## ■授業計画

全回遠隔（Zoom）授業で行う予定です。

第1回：教育課程（カリキュラム）の基礎理論と実践

第2回：教育課程とカリキュラムの経験

第3回：新学習指導要領の理解

第4回：カリキュラム・マネジメントの理論

第5回：カリキュラム・マネジメントの実践

第6回：学習評価を生かしたカリキュラム開発

第7回：物語のある学びのカリキュラム開発

第8回：教育課程論の現在の課題

## ■授業外学習（予習・復習）

各回の講義資料から疑問に思うこと、関心のあることを見つけ、より深く探究する。また、予習・復習において学び直した内容を各回のワークシートに反映する。

## ■受講要件

## ■成績の評価基準

（ワークシート等を含む）授業への参加（50%）と授業の内容理解を問うレポート課題（50%）で評価する。

## ■教科書・参考書

〈参考文献〉

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社、2018年

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、2020年

西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計：パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化社、2016年

田中耕治編『よくわかる教育課程〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2018年

## ■教師としての資質能力に関するチェック項目

3. 教育方法に関する理解

【A教職の理解】教育方法の理論に関する理解を深め、複式指導や少人数指導、教材開発や活用、授業分析など、指導法や授業改善について理解している

4. 学校経営およびその課題に関する理解

【A教職の理解】学校経営およびその課題（危機管理等）に関する基本的な知識を身に付けており、学校運営の在り方等について構想することができる

14. 教材分析力及び授業デザイン力

【D構想力、展開力、評価力等】教材を分析する能力を身に付けており、教材研究にもとづいて授業をデザインすることができる

15. 授業展開力及び授業評価力

【D構想力、展開力、評価力等】基礎的な教育技術や教育評価について理解し、それを活かした授業実践と、授業の評価・改善を行うことができる

16. 情報収集力、分析力、活用力

【D構想力、展開力、評価力等】情報を収集し、整理・分析することを通して、その情報を活用していくことができる

17. 各教科等のカリキュラムに関する理解

【E教科領域等の内容理解】教育課程及びその編成や学習指導要領について、基礎的な知識を身に付けている

19. 道徳、特別活動、総合的な学習の時間等に関する理解

【E教科領域等の内容理解】道徳、特別活動、総合的な学習の時間など、教科以外の教育活動について、その指導内容や指導方法に関する基礎的な知識を身に付けている

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

8回中8回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

授業形態（対面・遠隔）については、コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。